

便利になって、不幸になっているというパラドックス！！

「世の中が便利になって、一番困っているのが、実は人間なのです」と、寺の掲示板に、書いてありました。

確かに、何者かにせかされるように、バタバタと一日が終わり、充実感も達成感もないまま、疲労感を抱えたまま翌日を迎えている人が大半ではないでしょうか。

インターネット・メール・ライン・フェイスブック等々、瞬間に、相手につながり、スピード・精度・コスト面でも、数年前よりも非常に効率的になっています。

数年前よりも、我々の幸せが増したのでしょうか？数年前よりも、我々の人生が豊かになったのでしょうか？

交通の面でも、移動時間も短縮され、確かに便利になりました。その分、我々の心は満たされたのでしょうか。どうも、そうではないようです。

だからといって、時代を逆流させる訳には行きません。

人生の根本・大義・本質という「目的」と、有利不利・損得・枝葉末節の「手段」が混乱して、大事なことを見失っているのです。言い換えれば、「不易と流行」の高度なバランス感覚を失っているのです。

“人、学ばざれば、道を知らず”と礼記に、

“学ぶに如かざるなり”と論語にあります。

「学ぶこと」で、人生の大半の問題は解決するのです。

そのことを知ってか、最近「先哲に学ぶ人間学」に参加して下さる方が増えて参りました。ますます、浅学菲才の私の、責任が重くなって参りました。

碩学、安岡正篤先生が、「いま日本人は良心的に非常に頹廃して、従って正義に感激が無い。徒に弱いのは正義ではない。つまり日本人が、精神的に覚醒する、発奮するということ、陽明学的にいうと、『身心の学』であります。この身心の学を怠り、人々がどうして出世するか、どうして巧く立ち回るかというような功利主義、出世主義、享楽主義で徒に生活しておるのではいけない。我々が、平たく言うならば、もう少し精神的に覚醒しなければならん、良心的に奮起しなければならん。もっと人間らしい身心の学問をしなければならんということが、絶対的必要条件であります。」と、50年以上も前の、昭和47年に語っておられます。

口幅ったい言い方ですが、毎月の「先哲に学ぶ人間学」では、精神的覚醒、良心的奮起、身心の学問を目指しています。

社長、共に学び、共に実践し、素晴らしい人生を満喫して参りましょう。



今月のポイント

「学ぶこと」「学び続けること」